

に最も多く、舌、乳頭、外陰部粘膜（亀頭、膣、肛門など）にも生じる。境界明瞭で軽度の浸潤を伴う局面であることが多く、種々の形態をとる（表面平滑、角化性、疣贅状、乳頭状、びらんなど、**図 22.12**）。紅色肥厚性の病変は悪性化の可能性が高い（erythroleukoplakia）。

病因・診断・鑑別診断

タバコなどの慢性刺激によって細胞の異形成が生じ、白色病変を形成すると考えられている。臨床的に白色局面をつくる疾患として、扁平苔癬、円板状エリテマトーデス、梅毒、カンジダ症、外傷、白色海綿状母斑、GVHDなどが鑑別診断としてあげられる。これらの鑑別のために生検は必須である。

病理所見

過角化があり、表皮は肥厚する。角化細胞に種々の程度の異型性や異常角化を認める。

治療

外科的切除、抗悪性腫瘍薬外用、レーザー療法、凍結療法などを行う。禁煙を徹底する。

6. ケラトアカントーマ keratoacanthoma ★

Essence

- 顔面や手背に突然単発し、急速に發育して噴火口型のドーム状結節を形成する。
- 数か月の経過にて自然消退する。
- 病理組織学的には有棘細胞癌に酷似するため、有棘細胞癌との鑑別を要する。一般的に切除生検する。

症状

90%以上は顔面に生じ、中年以降の男性に好発、ほとんどの例で単発性である。若年者の症例では、色素性乾皮症を背景に多発することが多い。

小さな丘疹として初発するが、数週間で急激に増大して直径1～2 cm程度のドーム状ないし半球状結節を形成する（**図 22.13**）。弾性軟～硬、色調は常色～暗紅色で境界明瞭。一定の大きさまで急速に増大した後は、中心部から角化をきたして大きな角栓を入れ、噴火口状の外観をとる（keratin-filled crater）。数か月のうちに自然消退、後に癬痕を残す。



図 22.12 白板症 (leukoplakia)



図 22.13① ケラトアカントーマ (keratoacanthoma)



図 22.13② ケラトアkantトーマ (keratoacanthoma)
噴火口状のドーム状結節が特徴。

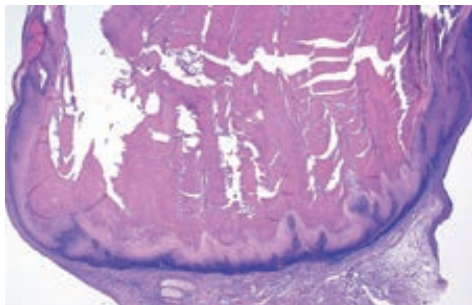
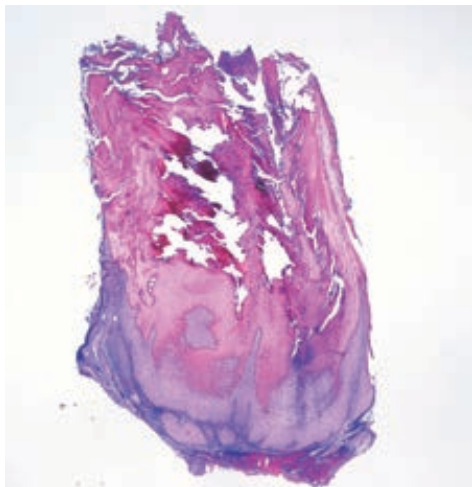


図 22.14 ケラトアkantトーマの病理組織像
腫瘍の中央部には著明な過角化がみられ、これをカ
ップ状に包むように辺縁部に有棘細胞が増殖する。

病因

長年の紫外線曝露, ヒト乳頭腫ウイルス感染, 喫煙, タール, 外傷などが関与すると考えられる. BRAF 阻害薬によって多発することがある (p.486 MEMO 参照).

病理所見

腫瘍の中央部では著しい過角化がみられ, これをカップ状に包むように辺縁部に有棘細胞が増殖する (図 22.14). 有棘細胞は明るい好酸性胞体を有し, 異型性をもち有棘細胞癌に類似する. 腫瘍細胞は真皮に浸潤しているようにみえることが多く, 腫瘍下にはリンパ球や好中球の浸潤がみられる. 本症を有棘細胞癌の特殊型と考える説と, 偽癌 (pseudocarcinoma) と考える説の両方がある.

鑑別診断

有棘細胞癌との鑑別を要する (表 22.4). 有棘細胞癌は腫瘍辺縁と正常組織との境界が不明瞭であり, 形態も非対称性で浸潤傾向が強い. また, 発育速度は有棘細胞癌のほうがはるかに遅い. 基底細胞癌や伝染性軟属腫との鑑別も要する.

治療

診断には病巣の全体的構築の把握が重要であり, 可能であれば全摘 (切除生検) するほうがよい. 部分生検で病理組織学的な診断がつけば, 経過観察により自然消退を待つこともある (図 22.15). 放射線照射, ステロイド, プレオマイシンの外用もしくは局注, レチノイド内服, 凍結療法なども行われる.

表 22.4 ケラトアkantトーマと有棘細胞癌の臨床症状からの識別

--



図 22.15 ケラトアcantoma (keratoacanthoma) の自然歴 (発症から自然消退まで)

a: 初発時, 直径 1 cm 大の半球状隆起性腫瘍として初発. b: 徐々に増大. c: さらに増大し中央部が自潰. d: 無治療でわずかの瘢痕を残して治癒.

B. 脂腺系腫瘍 sebaceous gland tumors

脂腺癌 sebaceous carcinoma

脂腺由来の皮膚癌で, 主に眼瞼脂腺 (Meibom 腺) に由来し, 上眼瞼に好発する橙黄色調の結節として観察される (図 22.16). 病理組織学的には腫瘍細胞巢内に澄明な胞体の異型脂腺細胞を認める. Muir-Torre 症候群は良性・悪性の脂腺系腫瘍を多発し, 内臓悪性腫瘍を伴う常染色体優性遺伝疾患であり, *MSH2* などの遺伝子修復関連遺伝子の変異が関与している.



図 22.16 脂腺癌 (sebaceous carcinoma)
眼瞼脂腺 (Meibom 腺) から生じたもの.

C. 毛包系腫瘍 follicular tumors

まれではあるが, 毛包を構成する各種細胞由来の悪性腫瘍として, 外毛根鞘癌 (trichilemmal carcinoma), 悪性増殖性外毛根鞘性嚢腫 (malignant proliferating trichilemmal cyst), 悪性毛母腫 (malignant pilomatricoma) などがある.

D. 汗腺系腫瘍 sweat gland tumors

1. 乳房 Paget 病 mammary Paget's disease ★

Essence

● 乳頭部を中心に, 浸潤を触れる湿疹に類似した紅斑や, びら